

《新しい調査区の発掘調査が始まりました！》

7月下旬から市道町川田大門線北側でT12調査区の発掘調査が始まりました。現在は中世と想定される面の調査を行っています。

T12調査区の西側に隣接する旧川田保育園（現：認定こども園川田）建設時の調査では、川田氏館跡との関連が想定される建物の跡や、たくさんの穴がみついています。



T12調査区調査の様子（北東から）

《穴だらけ！これって建物の跡？》

T12調査区からも建物の柱穴を含むたくさんの穴がみつかりました。

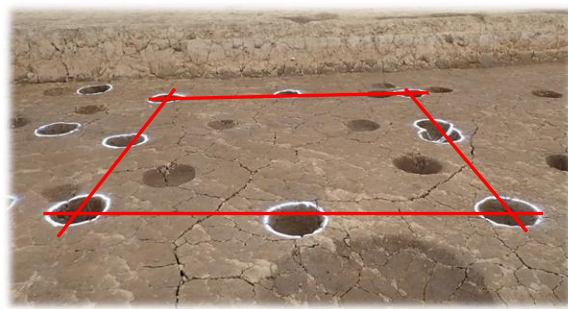
一見まとまりなく見えるこれらの穴も、穴の大きさや、穴と穴との間隔などを分析することによって、当時の建物の柱の位置や、上部の構造を推定することができます。

建物の規模を表すときには、柱と柱の間を「間^{けん}」と表現します。

T12調査区では、東西3間×南北2間の建物や、東西2間×南北2間の建物と想定される痕跡がみついています。



東西3間×南北2間の建物跡



東西2間×南北2間の建物跡



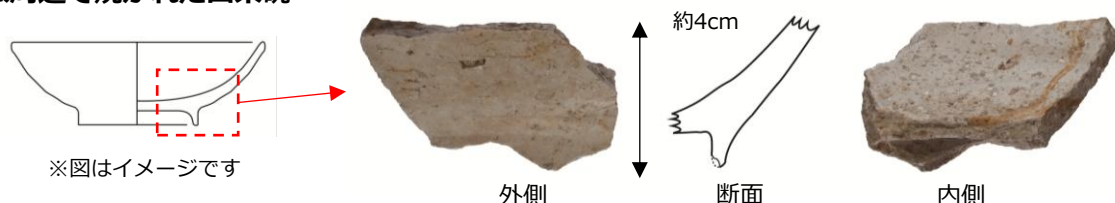
《東海地方から搬入された中世の陶器》

T12調査区からは、中世と想定される尾張（愛知県西部）周辺の窯で焼かれた山茶碗や、美濃中津川（岐阜県中津川市）周辺の窯で焼かれた陶器の甕がみつかりました。

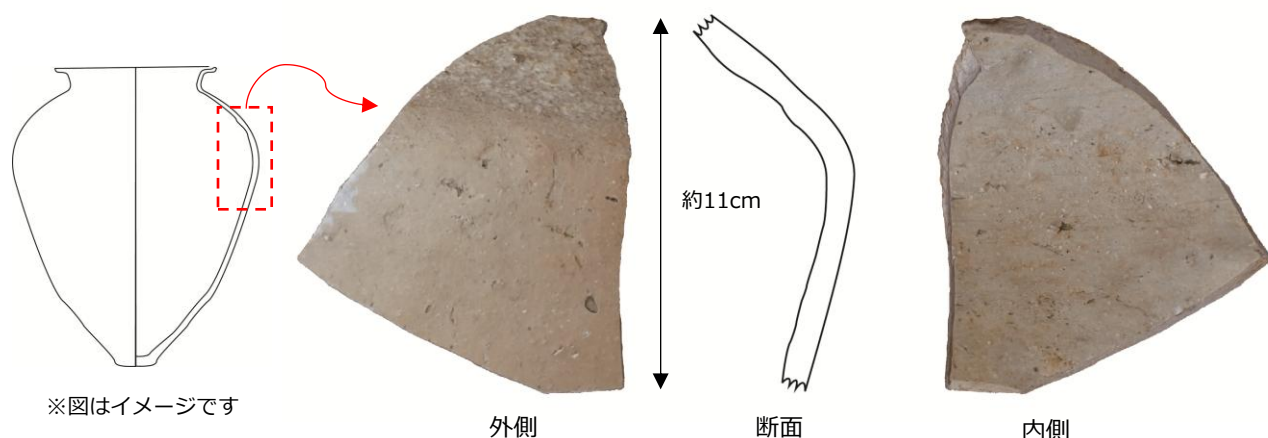
山茶碗は、釉薬を使わずに焼き上げられた陶器です。生産地である東海地方を中心に中部地方にも広く分布する遺物です。長野市内の遺跡でもみつかり、日常雑器として消費されたと考えられています。

中津川の窯で作られた陶器は、生産地周辺から信濃にかけて多くみつっている遺物です。北信地域では、栗田城跡・尾張城跡（ともに長野市）、東條遺跡（千曲市）など有力者の居館などに関連する遺跡でみつっています。本遺跡も川田氏館跡に隣接しており、地域の有力者との関連を考えさせる遺物です。

尾張周辺で焼かれた山茶碗



中津川の窯で焼かれた陶器（甕）



《現場公開》

現在、T12調査区は1次面（中世面）の調査を終え、さらに下の面の調査を行っています。遺構数も増加し調査は佳境を迎えています。

また、地元の皆さんにはすでに回覧いただきましたが、**10月1日（水）と2日（木）の両日、午後1時30分から3時まで**発掘調査現場の公開を行います。平日ではありますが、ぜひお越しください！

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話：026-293-5926

担当：中野、小山、鹿田

支援業務：(株)島田組

（足立、高見澤、樽谷、給田）

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp>